

カラーマネージメントの実際-色の標準化

まず、最終仕上がりとなる印刷を標準化

印刷工程にはインキベタ濃度、ドットゲイン、トラッピング率など様々な変動要因をコントロールし、仕上がり品質を一定の範囲内に
このとき目標とされる仕上がり品質を「印刷標準」あるいは「印刷ターゲット」と

「印刷標準」に仕上がるように印刷工程を制御することが印刷の標準化です。

CMYKは印刷して、初めて色が決定する

同じデータ

≠

印刷の仕上がり

* 印刷の変動要因が異なるため、仕上がり品質は異なる。

インキベタ濃度

ドットゲイン

トラッピング

etc.



同一データであっても、印刷の仕上がりは変動

日本の印刷の標準化を目指して
(社)日本印刷産業機械工業会
よりJapanColor2001 が提案され、
雑誌広告の立場からJMPA カ
ラーが提案されています。印刷
の標準化の必要性は、同じDTP
データであればどここの印刷会社
で印刷しても同じ色で印刷され
ることで、制作の効率化と印刷
の効率化が実現できるからです。